

ピレリスーパー耐久シリーズ 2020 Round. 4

odula AVANTECH ROADTER レースレポート

開催地: ツインリンクもてぎ(栃木県)

◇11月21日(土曜日)天候: 晴れ 路面: ドライ

公式予選/1位

◇11月22日(日曜日)天候: 晴れ 路面: ドライ

決勝/2位 (123Laps)

予選

今回レースが開催されたサーキット『ツインリンクもてぎ』。このサーキットは基本的にストップ&ゴーのコースとなっており、高回転型エンジンかつ後輪駆動車のロードスターには不利なサーキットとして知られ、苦戦を強いられるかもと覚悟はしておりました。しかし蓋を開けてみると想定以上に練習走行から好タイムを連発し、レースウィークに臨む前のネガティブな感情は予選前にはほぼ消えておりました。

予選では、岡山大会の時と同じく、予選時間終盤にタイムが出ると思われた為、今回も予選時間ギリギリまでクールダウンを挟まず全周アタックするプランでした。

車のフィーリングも非常に良いもので新品タイヤにもマッチした動きだった為、何も不安なくアタックさせて頂き、無事 A ドライバートップタイムをマークしました。

B ドライバーの草野選手も、トップタイムではなかったものの過去一のベストラップをたたき出し、2 戦連続ポールポジション獲得となりました。

決勝

今回の決勝では、スタートドライバーとチェッカードライバーを担当することとなりました。ポールスタートとなりスタートから後続を引き離すつもりでフルプッシュに攻めました。別クラスの車両を利用しつつ徐々に後続の車両を引き離しにかかり、二番手からソコソコのギャップを築きます。3 時間耐久ならそのまま全開で行き続けたところだったのですが今回は 5 時間耐久、さらに全国のサーキットの中でもブレーキに厳しいサーキットとなります。その為、ある程度ギャップを稼いだところから徐々にブレーキを労わる走行へと切り替え、チーム無線で後続車両のラップタイムの情報を貰いながら、その車両のペースに合わせこちらのレースペースをコントロールしました。

後続とペース配分の駆け引きをしながら約 1 時間 15 分近くのスティントを走行し、トップのまま B ドライバーの草野選手へドライバーチェンジ。草野選手も安定したペースで走行し、一番気温も高くなり体力的に厳しくなる時間の中、ノントラブルで1時間以上のスティントをこなし、C ドライバーの加賀美選手へドライバーチェンジ。加賀美選手は今回 S 耐久初参戦な上に以前ミドルフォーミュラのレースに参戦していましたが、それは約10年も前の話であり、しばらく第一線から退いていました。しかし、レース中は堅実に周回を重ねタイヤカスのピックアップも増える中の非常に難しい路面をアジャストしながら乗りこなし、加賀美選手もノントラブルで走行しスティントを走破。

順調にスティントを重ねていたものの最終スティントを担当する時には、レースラップのアベレージ、「駆動方式、エンジン特性」の違いによるピット戦略の違いにより一時的に7番手まで順位を落としていました。

しかし、車を引き継いだ時のフィーリングとしてはとても3時間以上走った車両と思えないほど不安はなく、ブレーキも全然ヘタっていない

SPONSORS



滝川眼科





かった為、チェッカーまで全開でいきトップまで順位を取り返す気合で走りました。そしてトラフィック上やピット作業に入った車両を次々に抜き、2位まで浮上。トップまでのGAPは正直巻き返すのが難しいほど開いておりましたが、レースはチェッカーが出るまでなにが起きるかわかりません。相手のミスを誘発するようレースラップで応戦しプレッシャーを与えますが、残念ながら力足らずで順位変動せず2位チェッカーとなりました。

今回、チームとしても最大限努力し数々のシチュエーションを考慮し最善の選択をしてきました。その為、この結果は非常に悔しくはありますが、全く後悔はありません。それどころか苦手と言われているこのツインリンクもてぎで2位という順位は素晴らしいものと感じております。

次戦はロードスターが得意とする大分県の「オートポリス」となります。今回の悔しさをバネに更に速さやチーム力を磨き上げ絶対的な速さで優勝しますので、応援よろしくをお願いします。



■Next Race■

開催日: 2020.12.12(土)・12.13(日)

開催地: オートポリス (大分県)

全長 : 4,674m

ストレート長 : 902m

コーナー数 : 18

コース幅 : 12~15m

レース時間: 5 時間

